

台風・大雨・風水害

5月下旬

各作物共通

1 事前対策

海岸に接した水田では、台風の通過が満潮時になる場合に、高潮で海水が逆流するおそれがあるので、水門の管理には万全を期する。

2 事後対策

1) 海岸近くで海水の浸冠水があった場合、直ちに排水させた後、淡水の掛け流しに努める。

また、潮風を受けたものは、速やかに淡水を散布して、塩分を洗い流す。

2) 塩害対策については別フォルダ**塩害**の「農地への海水の流入が農作物に及ぼす影響とその対策」を参照する。

水 稲

1 事前対策

1) 台風通過時の強風による植え痛みや損傷を防ぐため、冠水しない程度の深水とする。

2) 田植えを控えた水田では、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備、清掃を行う。

2 台風通過後の対策

1) 潮風害を受けたものは、24時間以内に淡水を散布し洗い流すのがよい。

2) 強い風雨によって茎葉に損傷を受けた稲は、以後一時的に蒸散作用が旺盛となるので、土壌水分の保持に努める。

3) 病害虫の発生に注意し、いもち病が発生した場合には薬剤散布を行う。

麦

1 事前対策

成熟後の収穫作業を容易にするため、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備、清掃を行う。

2 台風通過後の対策

1) 雨水が停滞しているほ場では、適期収穫ができるよう排水に努める。

2) 成熟期に達している麦は、刈り遅れによる品質低下を防ぐため、速やかに収穫を行う。ただし、高水分麦の収穫は脱穀時の衝撃による被害粒が発生しやすいため、収穫時の穀粒水分は30%以下とする。

3) 倒伏、赤かび病、穂発芽などがみられる麦は、別収穫、別出荷を行う。

茶

1 事前対策

1) 茶は滞水により根腐れを生じやすいので、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備、清掃を行う。

2) 幼木園では、強風によって茶樹が揺すられて断根したり、根元の土壌がすり鉢状にえぐられて乾燥するなどの現象を防ぐため、ネット等の資材で固定する。

2 台風通過後の対策

幼木園では強風により株が煽られ、株元周辺に穴が空くことがあるので、台風通過後に株元周辺を踏み固める。

野 菜

1 事前対策

1) アスパラガス、ミニトマト、イチゴ苗床等の施設野菜の雨よけ用ハウスはビニールを下げ、ハウスバンドの締め直し等により補強する。

2) バンドレスのビニルハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。

- 3) 露地野菜のうちナス、ピーマン、キュウリ等は支柱を補強するとともに、防風ネットを設置する。青ネギ等の軟弱野菜では、ほ場周りに防風ネットを設置する。栽培面積の大きいほ場では数畝毎に防風ネットを設置すると防風効果が高い。
- 4) ほ場内の溝、施設周りの排水溝を点検、整備、洗浄を行う。

2 台風通過後の対策

- 1) 溝に水が長時間たまると根腐れが発生しやすくなるので、溝にたまった水を早期に排水する。
- 2) 施設野菜（アスパラガス、ミニトマト、イチゴ苗床）は、急激な根の水分変化に野菜が対応できないため、台風通過後、極端な萎れが発生する。このため通過後、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドか、谷を開放し（風がある場合は風上は少し、風下は全開）、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。
- 3) 露地野菜は草勢回復のために、被害果等の除去や早めの収穫により、着果負担を軽減し、整枝、誘引、支柱直しを行い、葉面散布剤を散布する。茎葉の傷口から病害が発生するので早期に殺菌剤を用いて防除する。
- 4) 露地キュウリはべと病、炭疽病、疫病等が多発するため、早めに防除を行う。
- 5) 青ネギはべと病、白色疫病、タマネギは腐敗病に注意する。

果 樹・オリーブ

1 事前対策

- 1) 棚や防風ネット、ハウスの補強を事前に行う。
- 2) 迅速な排水を図るため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

2 台風通過後の対策

- 1) 倒伏した樹は、速やかに立て直して支柱を行い、根際に土を入れて固める。また、被害の状況に応じて枝葉を剪定する。
- 2) 裂けた枝は切り直し、接ぎろうを塗って保護する。落葉の激しい場合は、枝幹部に白塗剤を塗布する。
- 3) 風台風により潮風を受けた場合は速やかに（6時間以内）樹冠かん水を行い、塩分を洗い流す。

3 作物毎の対策

- 1) ハウスブドウ
施設内の高湿による灰色かび病の発生に注意し、ハウスの換気に努めるとともに防除を行う。
- 2) ハウスミカン
浮皮の発生を助長しないよう、園内の乾燥保持はもとより、園周囲の排水に留意する。可能であれば、園周囲へのマルチ設置などで土壌水分上昇を防ぐ。
- 3) キウイフルーツ
さぬきゴールドなど開花の早い品種の受粉は、雨の間を見計らって、ていねいに人工受粉を行う。降雨により灰色カビ病の発生が助長されるため注意する。発生が多い場合は殺菌剤を散布する。
- 4) ビワ
成熟期に達している果実は事前に収穫する。

花 き

1 事前対策

- 1) 露地栽培では、ほ場の周りに排水溝を設け、畝間の停滞水が速やかに排水できるようにする。
- 2) 施設栽培では、ハウスの周りに排水溝を設け、雨水の浸入を防ぐ。
- 3) ハウスやほ場の周りに防風ネットを設置する。また、フラワーネットを早めに張り、株の倒伏を防止する。既にフラワーネットを張っている場合は、支柱の補強を行う。
- 4) 施設栽培では、開口部を閉め、強風の吹き込みを防ぐとともに、ハウスバンドを締め直し、ビニールのバタツキによる破損を防止する。

2 台風通過後の対策

- 1) 風が収まったら、できるだけ早く倒れた茎を起こして、芽曲がりを防ぐとともに、殺菌剤を散布し

て病気の発生を防止する。

2) 降雨の跳ね上がりや冠水により茎葉に付着した土砂を防除を兼ねて洗い落とす。

3) 湿害により根の活性が低下し、養分吸収が悪くなるので、速やかに排水を行うとともに、500～1000倍程度の液肥を葉面散布、草勢の回復を図る。

4) 施設では通過後、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドか、谷を開放し（風がある場合は風上は少し、風下は全開）、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。

畜産

1 事前対策

1) 畜舎や堆肥舎は、大雨に対する補強と周辺水路の整備等を実施する。また、家畜ふん尿の流出防止のため、堆積場所の移動等適切な対応を行う。

2) 飼料畑は、排水路の点検、整備を行い、早期の雨水排出を心掛ける。

3) 収穫適期頃の牧草類等の収穫並びに夏作飼料作物（トウモロコシ、ソルガム等）の播種については、晴れの日を見計らって速やかな作業に努める。

2 事後対策

1) 畜舎や堆肥舎が浸水した場合には、通風、換気等によって乾燥を促進し、家畜ふん尿等による汚染防止に努める。また、畜舎消毒等によって疾病の発生予防に心掛ける。

2) へい死した家畜については、最寄りの家畜保健衛生所および農業共済組合と連携して適切な処理を行う。